



## コロナ禍と宇部市の公共交通

山口大学大学院創成科学研究科 教授 榎原 弘之

宇部市のような地方都市では、皆さんが自家用車で移動するようになり、公共交通の利用は長年にわたり減少傾向にあります。さらに、昨年春以降は、コロナ禍の影響により、公共交通の利用者数は激減しました。JR西日本の2020年度の決算発表によれば、新幹線の運輸収入は前年の4割以下、在来線も6割程度に落ち込んだとのこと。また宇部市交通局についても、昨年4、5月の乗合バスの収入前年比はそれぞれ50.7%、41.5%となり、その後も前年の8割以下の水準で推移しています。コロナ禍の公共交通への影響の深刻な点は、鉄道であれば新幹線、バスであれば高速バスや貸切など、収益性が高い部門の利用減少が大きいことです。これまで鉄道やバスの事業者は、収益性が高い部門の黒字の一部を使って、ローカル線などの収益性の低い部門の赤字を穴埋めしてきました。これを「内部補助」と呼んでいます。コロナ禍では、この内部補助を継続することがもはや難しくなっています。

現在のような厳しい状況にあって、今一度、公共交通のあり方が問い直されています。わが国では長い間、鉄道・バス事業者が内部補助で地域交通を支えることが当然視されてきました。しかしポストコロナの社会では、まちづくりの中で公共交通が果たす役割を明らかにし、必要ならば公的に支えていくことがより重要となってきます。

公共交通の役割として、まず、高齢者や障害者、高校生などの、自家用車を利用できない方々の移動手段の確保が挙げられます。また、人々が自家用車から公共交通に移動手段を転換すれば、移動に伴うCO2排出量が減少し

ます。さらに公共交通網を整備することにより、コンパクトシティの実現にも寄与することができます。

このような状況にあって、個人にできることは何でしょうか？一つは、可能な範囲で公共交通を利用いただくことです。例えば、2020年度の宇部市交通局の乗合事業の損失見込額は約4億7千万円です。一方、今年1月現在の宇部市の20歳以上の住民基本台帳人口は約13万7千人です。つまり成人の市民一人当たりの乗合事業の損失は約3,400円となり、単純計算すれば、すべての成人市民が毎月1往復以上バス利用の回数を増加させれば、赤字が解消されるということになります。毎日の通勤を公共交通に置き換えることは難しくても、月1回のバス利用ならば、実行できそうな方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

もう一つは、行政の実施する公共交通政策に関心を持って頂くことです。実は、今年度は宇部市の公共交通のマスタープラン（地域公共交通網形成計画）の最終年度に当たり、今年度中に新たな計画（地域公共交通計画）が策定される予定です。「宇部市公共交通協議会」という場には、行政だけでなく、市民の代表や交通事業者も参加して、今後の宇部市の公共交通のあり方が議されます。筆者もメンバーなのですが、まちづくりとの関係含めて、きちんと議論してゆきたいと思います。会議は公開ですし、議事録も公開されていますから、ぜひご関心を持って頂ければと思います。



### バスや電車で一日周遊、乗って応援のお誘い

宇部市交通局の一日券をご存知でしょうか？大人は600円、小人は300円で、宇部市内の区間を市バス乗り放題です。普段は土日・祝の利用ですが、夏休みの7月21日から8月31日までの期間は平日も乗れるので、日頃はマイカー移動の多い子どもたちや市民の皆さんも、市内をバスで探検、周遊のチャンスです。

JR西日本では、青春18きっぷの販売が7月1日に始まり、7月20日～9月10日まで利用できます。このきっぷは5回（人）乗車分が12,050円とややハードルがありますが、1枚で一日乗り降り放題、一人が5日でも、二人で1日・

三人で1日と分けても同行程で利用できます。たとえば、宇部新川～津和野まで90km片道1,690円、宇部新川～岩国まで119km片道2,310円なので、往復ならお得です。新型コロナで自粛の日々が続きますが、たまにはのんびり車窓を眺めて旅気分はいかがでしょう。

うべ交通まちづくり市民会議では、山口きらめき財団リレーイベントに「バスや電車で一日周遊、絵日記・プレゼンコンテスト」を応募中（審査結果は7月初めに通知予定）です。もし採択されたら、エコプラザHPや学校経由などでお知らせしますので、ご協力をお願いします。（うべこまち・村上）

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

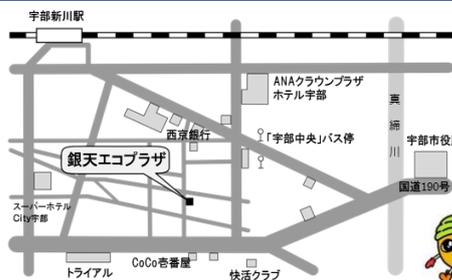
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週土・日曜日、祝日、年末年始



指定管理者 NPO 法人うべ環境コミュニティ

## 「森と湖（みず）を守る」ということ 小野地区放課後子ども教室 小野っ子の家 藤本恭子

宇部市の水源池である小野湖の環境保全をめざし平成30年より小野湖の日を制定し、小野小学生が「守る」「知る」「親しむ」を力強く宣言、担い手へのバトンタッチである。

厚東川ダム建設は、昭和15年から戦中を経て戦後25年に完成した。村の中心部が湖底に沈む、まだ補償が確立されていない時代の村の苦渋の選択、時節「非国民と言われるを恐れた」とも言われる。昭和22年、新制中学校制度発足で新校舎を建てるに当たって、ダム水没による村の経済が逼迫窮乏の財政下にも、国庫補助の6倍もの基金を村有林売却や戸別の拠出金により捻出。さらに厚狭高校分校を誘致。昭和26年には後の水産大学校臨湖実験場を誘致して、村の再構を教育立村にかけた。

平成8年には中学校校舎を、翌9年に小学校校舎を隣接に新築。将来の小中一貫校として整備し、先人の想いを継承した。その小野中学校が平成28年廃校になった。村の誰もが存続を願ったが、地方創生と言われる中、村から中学校が消えた。黙していることができず、存続への願いを込めて、署名活動や「田舎の教育力」について講演会をおこなった。ところが講師は開ロ一番「小野の今日の困窮（中学校の廃校）に至った原因は、村の中心部をダム建設に売った事に基因している」と。ダム建設の実態と現実の世間知の差を思い知らされた。そして、またもや行政主導の無念の結末に終わった。



私の預かる放課後子ども教室でも、愛郷心の一助にと、ふるさと自慢シールや、ふるさと大好きカルタなどを作ってきた。近年はダム湖が渇水によって昔の湖底がしばしば現れることから、湖底の在りし日の見える化に取り組んだりしてきている。

今年の6年生を送る会を、湖底の在りし日の家屋や田畑などシール化して可視化を計画していた。鹿や猪の害が強まる中、講演会や鹿の解体実演、小野産ジビエダムカレーなどを通して、命を頂くこと、森や水を守ることの意義、大切さを教えて下さった。

誰ひとり残さない、持続可能な社会づくり、「ふるさとの青き山、清き水を、何時までも」は、人々の熱き思い、希望。この原稿を書きながら、一瞬、究極の映像を見た。スイスの山岳か牧草地かの机の上に、パソコンで子どもが学習、傍で子牛が戯れている。新しい時代にも、世界中の田舎で「場の教育」が模索、実践されている。さて、我が故郷でも！！

### うべ環境コミュニティー会員

### コラム



#### ものづくりを通しての環境への取り組み

昭和女子屋台Lab 樋谷直美

ハンドメイド商品の小売している「昭和女子屋台Lab」です。中央銀天街にオープンして、約3年が過ぎました。当店は、女性の為のスタートアップの機能もありながら、当初から「人や環境に優しいモノづくり」に取り組んでいます。

日本における社会全体の大量生産と大量消費は、さまざまな環境問題や労働問題を引き起こしています。

そんな社会を変えたい、人や環境に優しい商品を生み出したい！という思いから、女性の目線から考える、モノづくり、働き方に、チャレンジしています。

当店のワークショップやセミナーなどを通して、SDGs12「つくる責任とつかう責任」を、天然資源の持続可能な管理および効率的な利用を達成できるよう取り組んでいます。

ワークショップでは、ニットソーイング教室（主催：あとリエ千尋の海）を開催し、初心者でもはじめられる体験講座をしながら、モノをつくる楽しさや手づくりの大切さを多くの人に伝えています。リメイク教室（主彩RODORI～）では、筆筒の肥やしになっている着物などの再利用も積極的に進めています。私たちは、ただハンドメイドの商品をつくって売るだけではありません。



左から石炭染、赤間石染



巾着



取っ手つきバック

着物リメイク教室

出店者の一人、天然石アクセサリー作家（主催：タロット慧）は、販売だけではなく、モノを大切に、長く使い続けられるよう、修理などもしています。また出店者の一人、染色作家（主催：ミケとタマ）は、宇部市で採掘される赤間石の廃材や、廃棄されている石炭の鉱物を利用して、染とインクプリントの開発に成功。現在、染の技術を活かした商品を販売しながら、宇部市ならではのブランド商品を開発中です。

その他、環境に取り組んでいるセミナーも沢山あります。人や環境に優しいナチュラル洗剤の学びセミナーや、手作りの洗剤を作るワークショップも開催中。

食品関係では、オープン当初から、廃棄が問題となっている酒粕やおからを使ったお菓子の販売や教室を開催しています。（主催：ママCaféばこあ）

当店では、すべてのことに、今世界が目指す、ずっと続けていける「サステナブル」なものづくりの社会の実現を目指して、活動に取り組んでいます。

是非お近くにお越しの際は、お立ち寄りください。